

母子保健における助産婦のあり方に関する研究 産後1ヶ月までのケア及び支援に関する褥婦のニーズ

神谷 整子¹⁾、大沢 文子²⁾、小田切 房子³⁾
瀬井 房子⁴⁾、平澤 美恵子⁵⁾

要 約：産褥期の生活が、より快適でスムーズに行える援助のあり方を探る目的で、出産後の入院中に行われているケアや援助の実態を把握するとともに、褥婦が産後1カ月に必要としている援助を質問紙表により調査分析した。その結果、入院中にうけた援助については、80%以上が役に立ったと答えているものゝ、実際に沐浴や衣類の着脱・オムツ交換等の基本的育児技術を実習した者ほぼ半数、授乳指導では7割前後であった。又、入院中「他にうけておきたい援助は特にない」と7割以上が答えておりながら、退院後の1カ月間に、自分の心身や新生児のことにに関して約半数が困ったり心配をしており、身近な者への相談・育児書を参考・出産場所への電話や受診をして解決していた。そして、産後1カ月間に必要・うけたい援助として、初産婦は①家庭訪問、②入院中の育児技術の習得、③入院中の自己乳房管理学習等、経産婦は①上の子の保育設備、②家事（買い物・炊事・掃除）のサービス、③夫の家事・育児への参加をあげていた。今後は施設・地域・他職種との連携のあり方とともに、必要とされている援助の具体的な方策の検討が望まれる。

見出し語：産後ケア、産後援助（支援）

研究方法：全国に会員のいる出版社の4才までの子供を持つ1,219名の会員を対象に、郵送により調査表を配布、及び東京都の保健所・保健相談所10カ所で行われた4カ月乳児健康診査に来所した母親527名に調査表を直接配布し、後
日来所時回答を回収する方法で実施した。回答は、出版社771名(63.2%)、保健所等425(80.6%)、計1196名(68.5%)から得られた。

¹⁾ 出張開業、²⁾ フリー、³⁾ 埼玉県立衛生短期大学、⁴⁾ ベーヘルシー 美蕾、⁵⁾ 日本赤十字看護大学

結果：1. 対象者の属性及び出産時の状況（表1） 出産時の年齢は26～35才が969人(81.0%)で、平均年齢30.44才、出産回数は初産647人(54.1%)、1回経産410人(34.3%)、2回経産以上が135人(11.3%)であった。家族構成は核家族83.6% 複合家族16.4%、職業は半数が有職者であった。出産後の入院期間は、出産場所にかかわらず、5～7日間が72.2%と最も多く、児の出生体重は2500～3499gが952人(79.6%)であった。出産の入院形態は、母児同室及び昼同室・夜異室を合わせると、総合病院42.7%、産科病院64.1%、個人医院60.1%、助産所92.8%、異室がそれぞれ51.9%、25.3%、30.6%、3.6%であった。

2. 入院中にうけた援助及び意識（表2）。入院中にうけた沐浴・授乳指導、乳房マッサージ、産褥体操、児の衣類着脱・オムツ交換、退院指導等の援助については、80%以上が役にたったまあ役にたったと答えており、実際に沐浴を行ったり(40.2%)、児の衣類着脱・オムツ交換を行った(52%)者は半数前後、授乳指導では実際に抱き方・飲ませ方を実施した者73.7%、乳房マッサージをうけた者68.1%であるが、他の説明のみや、見学・ビデオを見る形の援助を受けた者と比べると役にたった・まあ役にたったと答えた者が98～99%で実施の効果がはっきり現れている。援助項目を出産場所別にみると、総合病院で授乳指導を実施にうけた者が80.6%と最も多く、更に出産場所別における援助者をみると、助産所を除き、総合病院での授乳指導・乳房マッサージを助産婦から一番多く受けていた（表3）。他に援助者として、看護婦（14～34%）又は、助産婦か看護婦かわからないが、看護職という

答えが11～22%の範囲であった。

3. 退院後～1ヵ月検診間の心配・困ったこととその解決法。

出産後の1ヵ月間は、ほとんどの者が実母・夫・夫の母に家事を手伝ってもらっており（図1）、91.9%は手伝ってもらってよかったと答えているが、8.1%は気疲れ等の理由で「いいえ」と答えている（図2、図3）。入院中他に受けておきたかった援助はあるか？について、74%の者は「ない」と答えている（図4）。にもかかわらず、退院後1ヵ月検診までの間に813名（68.5%）——初産62.2%、経産37.8%——が心配又は困ったことがあったと答えており（図5、図6）、新生児に関しては、643名(54.2%)が授乳・湿疹・泣き・黄疸等で、自分の心身のことで517名(54.2%)が母乳・乳房・悪露・産後の回復等で心配又は困ったとしており、身近な者（母・義母・姉妹）に相談(51.4%)、育児書・育児雑誌を参考(44.4%)、出産場所へ電話(31.9%)・受診(34.4%)等をして解決していた。

4. 産後1ヵ月間に必要・受けたい援助についての意識（図7、表4。）

最後に産褥1ヵ月間に必要又は受けたい援助を尋ねると、初産婦では①家庭訪問(44.8%)、②入院中の育児技術の習得(44.5%)、③入院中の自己乳房管理習得(39.7%)、④夫の育児休業取得による家事・育児への参加(34.7%)、⑤家事のサービス(32.7%)の順であり、経産婦は①上子の子守又は保育施設(53.9%)、②家事のサービス(46.8%)、③夫の育児休業取得による家事・育児への参加(34.3%)、④入院中の自己乳房管理習得(30.1%)、⑤家庭訪問(27.7%)をあげていた。

考 察：今回の調査で83%以上が核家族世帯であり、ほぼ99%が施設(2.3%の助産所含む)での出産であることを考えると、退院後の支援は勿論大切であるが、入院中のケアや援助のあり方を把握し、振り返ることも重要あると考えられる。更に入院形態の40.1%が母児異室制をとっており、入院中一度も一緒に生活をせず退院することを考えると、技術や知識を学習したとしても応用や児の扱いに慣れるという点では不十分であろう。しかも、実際に我が子を沐浴させたり、衣類の着脱やオムツ交換をしたことがないまま退院を迎えるのであれば、退院後の育児不安は想像がつく。できれば母体回復の兆しを見計らって、短時間ずつでも母児共に慣れていくことは必要不可欠であろうし、沐浴や授乳等で見学・ビデオ・説明のみの指導を受けたものより、実際に行った者の方が「役にたった」と答えている率は98~99%と高く、実習の効果ははっきりと現れている。又、その援助した者をみると、看護婦も助産婦と同じ位携わっているが、11~22%位は「助産婦か看護婦か区別がつかないが、看護職の人」から援助を受けている。これは、母子の専門教育を受けた助産婦を活用することを考えた場合、職種をネームプレート等で明示することで、継続的な産後の母子支援や退院後の心配・不安が生じた時等、電話相談の窓口にも役立つと思われる。

入院中は、何か困ったり心配があればいつでも相談し解決できるので、他に必要とする援助に関して、74%の母親は思い浮かばないとしているが、退院すると、日毎に変化する我が子の世話と育児に明け暮れ、出産後の自分の心身も

含めて元の生活サイクルのようにはいかず、新生児や自分の心身のことで、心配や困ったことが起きてくるであろうことは容易に想像できるし、事実そうである。そして、身近かな実母・義母に相談し、育児書を参考にし、出産場所へ電話や受診をしたりして解決している。であるから、産後の1か月の生活を振り返って、どのような援助を必要とし、どのような援助があればよかったかを知ることは、今後、産褥期の生活をより快適でスムーズに行える支援をする為には重要である。今回の調査では、初産婦は第一に退院後の児の様子や乳房の様子等を診に家庭訪問を望んでおり、第二に同じ位の割合いで入院中に基本的育児技術の習得、第三に自己乳房管理について学びたいとしている。これは前述したように、入院中は説明を受けたり、見たりしているので気がつかないが、退院後自分で行ってみて「やっておけばよかった、教えておいてもらえばよかった」ということなのであろう。乳児を抱くのは我が子が始めてという母親が殆どである今日、習うだけでなく基本的な取扱に慣れるということも不可欠であり、施設の入院形態や援助のあり方をも含めて、母親が育児に自信を持って退院できる援助が期待される。経産婦では第一に上の子の保育に関して何らかの手助けを必要とし、第二に買い物・炊事・掃除を含めた家事のサービスをうけたいとしている。とすれば、今後、公的・民間の人的・物的社会資源の活用や、援助者間の連携のあり方をより具体的に検討し、産後の生活がより快適でスムーズに行えるようなサービスの提供が期待される。

表1. 対象者の属性及び出産時の状況

年 齢		出産場所	
～20才	6人 (0.5%)	総合病院	633人 (52.9%)
21～25	88 (7.4)	産科病院	274 (22.9)
26～30	548 (45.8)	個人医院	250 (20.9)
31～35	421 (35.2)	助産所	28 (2.3)
36～40	111 (9.3)	自宅	3 (0.3)
41～	14 (1.2)	無記入	8 (0.7)
無記入	8 (0.7)		
平均年齢	30.44 才		
出産回数		分娩様式	
初産	647人 (54.1%)	正 常	886人 (74.1%)
2回目	410 (34.3)	吸引	100 (8.4)
3回以上	135 (11.3)	鉗子	12 (1.0)
無記入	4 (0.3)	帝王切開	129 (10.8)
		無記入	69 (5.8)
職 業		入院形態	
無 し	577人 (48.2%)	母児同室	396人 (33.1%)
常 勤	356 (29.8)	母児異室	479 (40.1)
パート	176 (14.7)	昼同室・夜異室	232 (19.4)
自 営	74 (6.2)	その他・無記入	89 (7.4)
住 宅		入院期間	
集合住宅	761人 (63.6%)	0～4日	25人 (2.1%)
一戸建て	421 (35.2)	5日間	199 (16.6)
無記入	14 (1.2)	6日間	257 (21.5)
		7日間	414 (34.6)
		8～15日間	246 (20.6)
		16～	47 (3.9)
		無記入	8 (0.7)
家族構成		出生児の体重	
核家族	1000人 (83.6%)	～2499g	76人 (6.4%)
複合家族	196 (16.4)	2500～2999	396 (33.1)
		3000～3499	556 (46.5)
		3500～3999	149 (12.5)
		4000～	17 (1.4)
		無記入	2 (0.2)

表2. 入院中に受けた援助及び意識

		複数回答			
		役に立った	まあ役に立った	あまり役に立たなかった	必要ない
a. 沐浴指導	説明を聞いた	502人(59.8%)	298人(35.5%)	36人(4.3%)	4人(0.5%)
	実際に行った	416(86.5)	60(12.5)	3(0.6)	2(0.4)
	ビデオを見た	48(40.3)	50(42.0)	14(11.8)	7(5.9)
	その他	13(46.4)	9(32.1)	4(14.3)	2(7.1)
b. 授乳指導	説明を聞いた	211(56.6)	118(31.6)	35(9.4)	9(2.4)
	実際に行った	747(84.8)	117(13.3)	14(1.6)	3(0.3)
	ビデオを見た	95(43.4)	98(44.7)	21(9.6)	5(2.3)
	その他	14(50.0)	5(17.9)	3(10.7)	6(21.4)
c. 乳房 マッサージ	説明を聞いた	176(52.7)	99(29.6)	54(16.2)	5(1.5)
	実際にしてもらった	639(78.4)	118(14.5)	56(6.9)	2(0.2)
	ビデオを見た	138(47.6)	106(36.6)	42(14.5)	4(1.4)
	その他	24(57.1)	5(11.9)	9(21.4)	4(9.5)
d. 産褥体操	説明を聞いた	69(20.4)	106(31.3)	150(44.2)	14(4.1)
	実際に行った	81(47.4)	56(32.7)	32(18.7)	2(1.2)
	ビデオを見た	33(17.8)	70(37.8)	73(39.5)	9(4.9)
	その他	26(13.3)	60(30.6)	85(43.4)	25(12.8)
e. 衣類の着 替え交換	説明を聞いた	185(49.9)	154(41.5)	24(6.5)	8(2.2)
	実際に行った	495(79.6)	120(19.3)	5(0.8)	2(0.3)
	ビデオを見た	21(29.2)	37(51.4)	9(12.5)	5(6.9)
	その他	9(22.5)	8(20.0)	12(30.0)	11(27.5)
f. 退院指導	帰宅後の母体の変化	445(47.0)	438(46.3)	58(6.1)	6(0.6)
	産後の休養と家事労働	342(38.8)	432(49.0)	98(11.1)	10(1.1)
	赤ちゃんの栄養と観察	447(46.4)	411(42.6)	97(10.1)	9(0.9)
	赤ちゃんの発育と観察	403(49.0)	349(42.5)	62(7.5)	8(1.0)
	乳房の自己管理	336(47.2)	270(37.9)	99(13.9)	7(1.0)
	家族計画	255(31.6)	407(50.5)	112(13.9)	32(4.0)
	社会資源の活用	118(31.6)	153(40.9)	93(24.9)	10(2.7)
その他	21(55.3)	12(31.6)	5(13.2)	0(0.0)	
g. その他	22(68.8)	5(15.6)	4(12.5)	1(3.1)	

表3. 入院中の援助を誰に受けたか？

	医師	助産婦	看護婦	助産婦か看護婦	その他
a. 沐浴指導	31: 0.3%	447: 37.4%	418: 34.9%	265: 22.2%	33: 2.8%
b. 授乳指導	10: 0.8	529: 44.2	380: 31.8	255: 21.3	31: 2.6
c. 乳房マッサージ	8: 0.7	561: 46.9	329: 27.5	218: 18.2	44: 3.7
d. 産褥体操	12: 1.0	192: 16.1	168: 14.0	133: 11.1	148: 12.4
e. 衣類の着脱・おむつ交換	3: 0.3	349: 29.2	377: 31.5	248: 20.7	43: 3.6
f. 退院指導	175: 14.6	438: 36.6	300: 25.1	215: 18.0	48: 4.0
g. その他	6: 0.5	17: 1.4	13: 1.1	10: 0.8	12: 1.0

図1. 出産後1ヶ月間の家事・育児を主に誰に手伝ってもらったか？

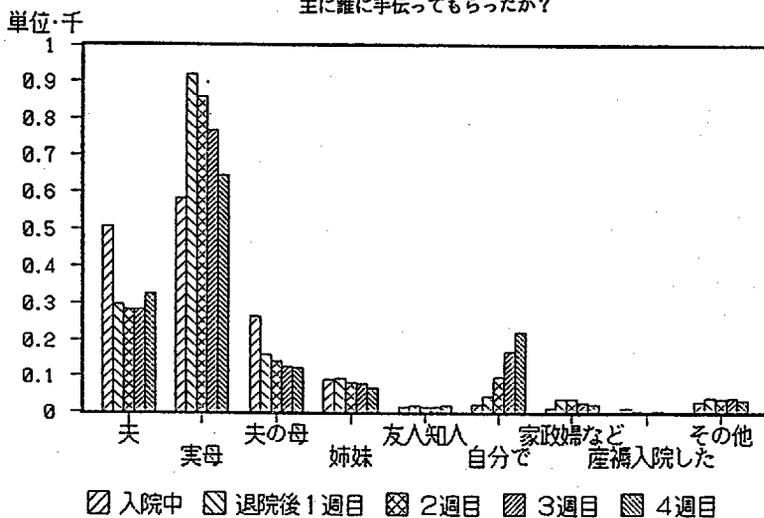


図2. 手伝ってもらってよかったですか？

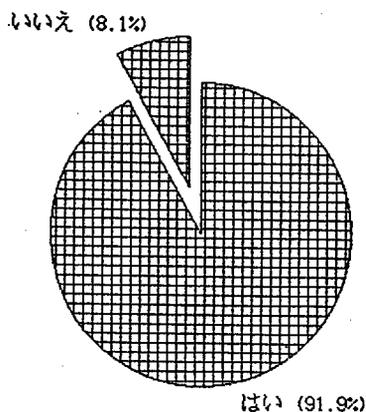


図3. 「いいえ」と答えた方
それは何故ですか？

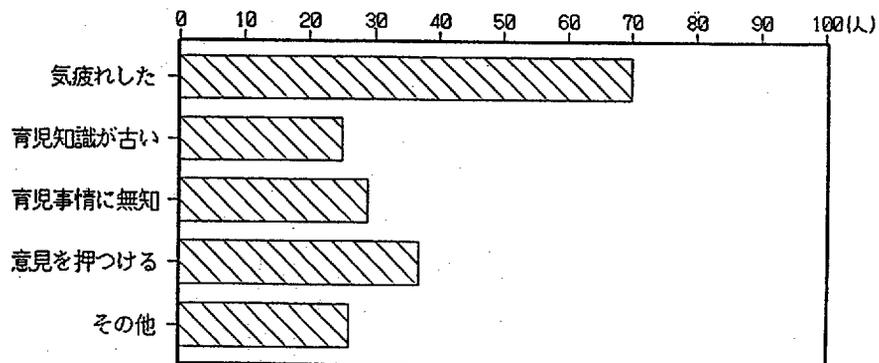


図4. 入院中に他に受けておきたかった援助はありますか？

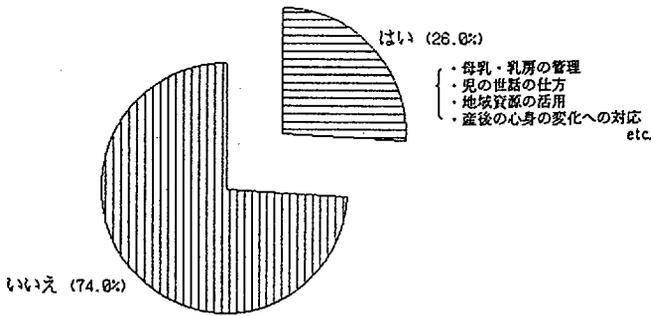


図5. 退院後1ヵ月後診までに心配なことはありましたか？

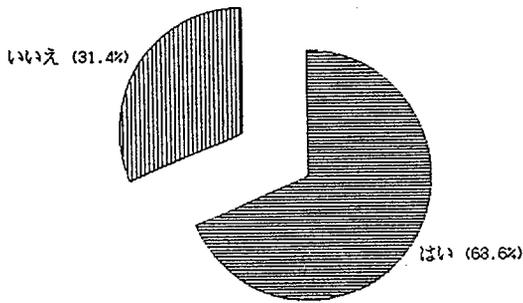


図6. 「はい」と答えた方は何について心配でしたか？

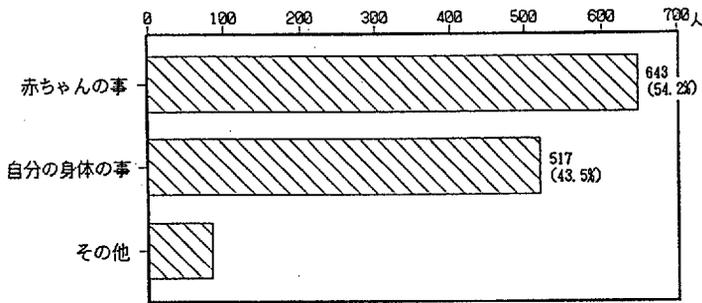


図7. 産後1ヵ月迄に必要な又は受けたい援助

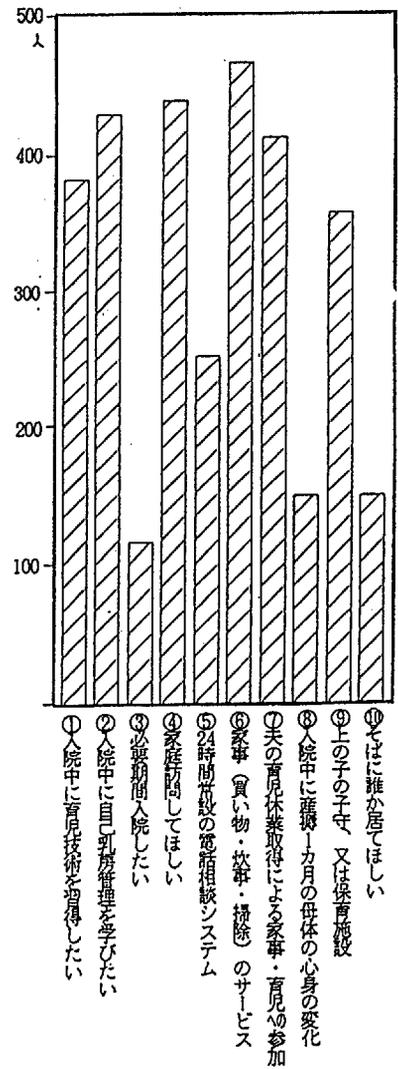


表4. 初産・経産別にみた産後1ヵ月間の必要・受けたい援助

初産		1回経産	
①家庭訪問	288人 (44.8%)	①上の子の子守・保育施設が欲しい	220人 (53.9%)
②入院中に育児技術を習得したい	286人 (44.5%)	②家事(買い物・炊事・掃除)のサービス	191人 (46.8%)
③入院中に自己乳房管理 乳房トラブルの対処について学びたい	255人 (39.7%)	③夫の育児休業取得による家事・育児への参加	141人 (34.6%)
④夫の育児休業取得による家事・育児への参加	223人 (34.7%)	④入院中に自己乳房管理 乳房トラブルの対処について学びたい	123人 (30.1%)
⑤家事(買い物・炊事・掃除)のサービス	210人 (32.7%)	⑤家庭訪問	113人 (27.7%)

上位5位



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約:産褥期の生活が、より快適でスムーズに行える援助のあり方を探る目的で、出産後の入院中に行われているケアや援助の実態を把握するとともに、褥婦が産後1ヵ月に必要としている援助を質問紙表により調査分析した。その結果、入院中にうけた援助については、8096以上が役に立ったと答えているものゝ、実際に沐浴や衣類の着脱・オムツ交換等の基本的育児技術を実習した者ほぼ半数、授乳指導では7割前後であった。又、入院中「他にうけておきたい援助は特にない」と7割以上が答えておりながら、退院後の1ヵ月間に、自分の心身や新生児のことに約半数が困ったり心配をしており、身近な者への相談・育児書を参考・出産場所への電話や受診をして解決していた。そして、産後1ヵ月間に必要・うけたい援助として、初産婦は 家庭訪問、入院中の育児技術の習得、入院中の自己乳房管理学習等、経産婦は 上の子の保育設備、家事(買い物炊事・掃除)のサービス、夫の家事・育児への参加をあげていた。今後は施設・地域・他職種との連携のあり方とともに、必要とされている援助の具体的な方策の検討が望まれる。